


(4) 重要な構成要素の個票

重要な構成要素の個票を記載する。既に選定されている重要な構成要素も含め、表 4-2 の構成要素の種類の順序で作成した。なお、構成要素の種類の中における字の順序は平取町が定める順序による。字が同一の場合は地番の昇順とし、地番が無い場合は字の末尾とする。

VI ピラウトウルコタンのイウオロ

番号	VI_1	名称	山の神を祀る鳥居
写真			
景観の層	④	位置図	
地形区分	山地		
類型	林業関連		
面積	0.1ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	字川向 160-1		
所有者	平取町		
概要	<p>開拓期以降、この山林に入る人々の無事を祈るためにつくられた鳥居である。毎年12月12日と1月12日は「山の神」の日として、山の神を祀る儀礼が行われており、林業を行う上で、地域の人々の信仰を支えた場所として今も残されている。</p>		
価値	開拓期の林業を物語る要素として重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥居はその慣習に従い維持・更新を行う。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥居の毀損および除去など 		

番号	VI_2	名称	ペンケピラウトウルナイ
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地・河岸段丘及び低地		
類型	伝承地		
面積	—		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	字川向 169-1・2・3、 河川用地の一部		
所有者	平取町		
概要	<p>沙流川左岸側に位置し、河道に沿って連続する平坦な山並みが折り重なるよう陥入する沢筋で、平取（ピラウトウル）の語源の由来候補として有力な場所である。現在は沙流川右岸に集落があるが、松浦武四郎の記録等から以前は沙流川左岸のこの二つの沢付近に住む人々が移動したのと考えられていて、そのときに自分たちの住んでいた元の沢名を付けたと言われている。</p>		
価値	アイヌによる沢の利用や集落形成の歴史を理解する上で重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全し、河川の流路を大幅に人為的に改変しない。また周辺の自然生態系の保全に努める。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・流路の大幅な変更 ・土地の掘削、盛土、切土 ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 ・河畔林の生態系に著しい影響を与える樹木の伐採 		


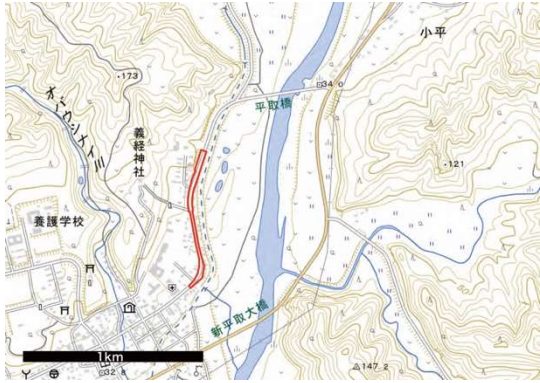
番号	VI_3	名称	パンケピラウトウルナイ
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地・河岸段丘及び低地		
類型	伝承地		
面積	—		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	字川向 211、 河川用地の一部		
所有者	平取町		
概要	<p>パンケピラウトウルナイに隣接（沙流川下流方向）する沢筋で、同様に平坦な山並みが折り重なるよう陥入する地形となっており、平取（ピラウトウル）の語源の由来候補として有力な場所である。現在は沙流川右岸に集落があるが、松浦武四郎の記録等から以前は沙流川左岸の二つの沢付近に住む人々が移動したのと考えられており、そのときに自分たちの住んでいた元の沢名を付けたと言われている。パンケピラウトウルナイは、近隣への移動の道（古道）に利用されていたこともあり、沙流川流域と他地域のつながりも想像される。現在は町有林が広がっている。</p>		
価値	アイヌによる沢の利用や集落形成の歴史を理解する上で重要		
保存の対象と方針	土地の形質を保全し、河川の流路を大幅に改変しない。また周辺の自然生態系の保全に努める。		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・ 流路の大幅な変更 ・ 土地の掘削、盛土、切土 ・ 建築物、工作物、土木構造物等の新築 ・ 河畔林の生態系に著しい影響を与える樹木の伐採 		

番号	VI_4	名称	ハヨピラ
写真			
景観の層	③・④	位置図	
地形区分	山地・河岸段丘及び低地		
類型	伝承地		
面積	0.9ha		
文化財等の指定状況	—		
所在地	本町 120-4		
所有者	平取町		
概要	<p>アイヌの人文神オキクルミが降臨した地と言われている。近藤重蔵により義経神社の前身となる祠が建てられ、御神像が納めされた。その後この地を訪れた松浦武四郎の記録には「義経大明神の社」と記され、明治時代にはイザベラバードも訪れ、当時の様子を記している。ピラウトウル（平取・崖の間）の語源となった崖が、このハヨピラとクオヒラ（国道敷設に伴い削平）ではないかとする説もある。</p>		
価値	アイヌの精神文化にまつわる伝承と平取町名の由来をあらわす場所として重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土 ・建築物、工作物、土木構造物等の新築（既存構造物の保全修理・安全対策に関する各種行為を除く） 		


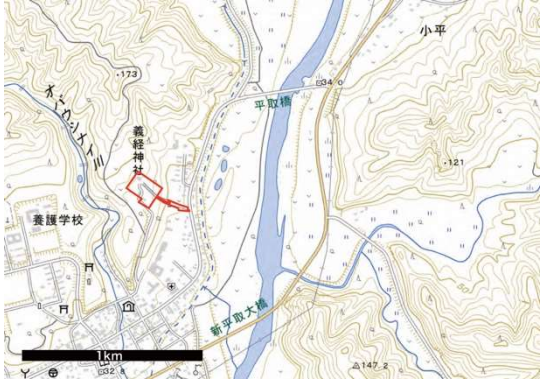
番号	VI_5	名称	おおがんけ
写真			
景観の層	④	位置図	
地形区分	山地・河岸段丘及び低地		
類型	伝承地		
面積	1.2ha		
文化財等の指定状況	—		
所在地	本町 159-6		
所有者	沙流土地改良区		
概要	<p>かつての沙流川の河道を物語る痕跡である。1975（昭和 40）年頃までは、ここから直下を流れる沙流川に飛び込み、当時の子供たちの遊びの場となっていたと言われる。おおがんけとは大きい崖の通称である。現在は、削られたこともあり小さくなってしまっている。付近には「こがんけ」といわれた場所もある。</p>		
価値	沙流川流域の地形的特徴とコタンから近代市街地の立地を理解する上で重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土 ・崖地の形状を大きく毀損するあるいは大部分を覆ってしまうような建築物、工作物、土木構造物等の新築 		

番号	VI_6	名称	ペンケトコム
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地・河岸段丘及び低地		
類型	伝承地		
面積	515ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（二次）		
所在地	字小平 80-1		
所有者	三井物産株式会社		
概要	<p>上流側のペンケトコムと同じような大きさ・形を呈している三角山である。近所の人々のランドマーク的存在であるとともに、妖しいアイヌ伝承が残る場所である。</p>		
価値	<p>小平地区において、アイヌをはじめとする地域住民にとって特に特徴的なランドマークとして古くから認識されてきた場所として重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土（計画的な森林施業における作業道などは除く） ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 		

番号	VI_7	名称	パンケトコム
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地・河岸段丘及び低地		
類型	伝承地		
面積	515ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（二次）		
所在地	字小平 80-1		
所有者	三井物産株式会社		
概要	<p>下流側のパンケトコムと同じような大きさ・形を呈している三角山である。近所の人々のランドマーク的存在であるとともに、妖しいアイヌ伝承が残る場所である。</p>		
価値	<p>小平地区において、アイヌをはじめとする地域住民にとって特に特徴的なランドマークとして古くから認識されてきた場所として重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土（計画的な森林施業における作業道などは除く） ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 		

番号	VI_8	名称	ピラウトウルコタン跡の生活道路
写真			
景観の層	③～⑤	位置図	
地形区分	山地・低地及び河岸段丘		
類型	道		
面積	1.0ha		
文化財等の指定状況	—		
所在地	本町 208-1・2、211 (道道 80 号)		
所有者	北海道、平取町		
概要	<p>ピラウトウルコタンと呼ばれた時代から現在も変わらず残されている集落の主要道路である。沙流川との比高約 13m に位置する低位河岸段丘の縁に沿って形成されている。1878 (明治 11) 年に平取を訪れた旅行家イザベラ・バードは、義経神社の鳥居付近にあったペンリウク宅に滞在し、当時ハヨピラに置かれていた義経神社の原型となる祠を訪れた。「日本奥地紀行」には、平取町本町に至る道筋やペンリウク滞在中の記録が記されており、当時の平取の様子を知る貴重な手掛かりとなっている。その他にも多くの研究者等が訪れたこの地の当時の状況を感じることでできる貴重な道筋となっている。</p>		
価値	<p>水害を避け安全な土地に集落を形成するという当時の集落立地や集落構造を理解する上で重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質と道の線形を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土 ・道路線形の大幅な変更 (道路幅員の拡幅やそれに伴う線形の軽微な変更等を除く) 		

番号	VI_9	名称	隣の川筋への古道
写真			
景観の層	③～⑤	位置図	
地形区分	山地・低地及び河岸段丘		
類型	道		
面積	—		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	字川向 160-1		
所有者	平取町		
概要	<p>パンケピラウトウルナイから川筋を通過して門別へ抜ける交易路である。現在は林道として整備されているが、林間の歩行景観、遠景に広がる山並みなどは、当時の風景を伝える空間として残されている。</p>		
価値	<p>古くから沢をつたって山を超え、集落間を行き来していた当時の生活文化を理解する上で重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・その道筋の地理情報を記録し、土地の形質を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・道筋がわからなくなってしまうほどの土地の掘削、盛土、切土 		

番号	VI_10	名称	義経神社
写真			
景観の層	④	位置図	
地形区分	山地		
類型	神社		
面積	1.3ha		
文化財等の指定状況	—		
所在地	本町 86-6、97-1、118-2・4、119-2		
所有者	義経神社、平取町		
概要	<p>義経神社の起源は、幕吏近藤重蔵による祠の設置と御神像の奉祀とされる。1800年初頭前後は、幕府による蝦夷地直轄が段階的に行われ、蝦夷地を取り巻く対外的な緊張関係が高まっていた時期であり、そのような時代背景の中で平取に義経崇拜の一拠点が築かれていく。明治9(1876)年に村社となるが、明治20(1887)年頃の暴風雨により祠、御神像ともに沙流川に落下、流出。後に無事に発見され、再建された。その後ハヨピラと現在の神社との間に祠が建てられた後、再度移され明治34(1901)年に現在の位置に社祠が建てられた。義経神社が平取の名所・旧跡として広く知られていくようになるのはこれ以降とみられる。</p>		
価値	幕末から明治期にかけての沙流川流域におけるピラウトウルコタンの中心性、重要性を理解する上で重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ピラウトウルコタン跡地の後背山への神社立地を保全する ・幕末から近代にかけての歴史的価値の保全活用を行う 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地所有者の変更 ・幕末及び近代以降の歴史的価値の継承に反する整備など 		

番号	VI_11	名称	イオル水辺空間
写真			
景観の層	⑤	位置図	
地形区分	低地及び河岸段丘・河川		
類型	川洲・河川敷		
面積	5.8ha		
文化財等の指定状況	—		
所在地	本町 160-4・5・6・7		
所有者	国土交通省、平取町		
概要	<p>2008（平成 20）年度から始められた平取地域イオル再生事業のうち、「水生植物の生成環境」の再生に取り組んでいる場所である。アイヌ文化有用植物の自然素材採取育成（=水辺のイオルの再生）のため、ガマ、茅などを栽培・育成している。</p>		
価値	<p>かつて沙流川流域に広がっていた水辺空間と、現代のアイヌ文化伝承の取り組みを理解する上で重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質保全 ・河川環境の保全及び文化環境の再生 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土（イオルの再生に必要なものを除く） ・建築物、工作物、土木構造物等の新築（イオルの再生に必要なものを除く） 		


VII ニプタニコタンのイウォロ



番号	VII_1	名称	沙流頭首工
写真			
景観の層	④	位置図	
地形区分	低地及び河岸段丘・河川		
類型	産業関連		
面積	0.03ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	字二風谷河川用地の一部		
所有者	国土交通省		
概要	<p>1915（大正4）年に整備された灌漑施設である。近代開拓、特に本町の水田造成において重要な役割を果たした。現在残されている頭首工は、朱色の金属部が力強さとともに、景観的アクセントとなり、特有の風景を形成している。</p>		
価値	近代開拓の歴史を物語る要素として重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・頭首工の外観及び位置を保存する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・頭首工の外観（基本的な形状）及び位置の変更 		

VIII ピパウシコタンのイウォロ

番号	VIII_1	名称	スルクウンコツ
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地・河岸段丘及び低地		
類型	伝承地		
面積	105.3ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	字二風谷 130-1		
所有者	平取町		
概要	<p>三角山の麓の高く尖った岩山の北側にある窪地である。二風谷地域では、この地とスルク(suruk:毒)にまつわる伝承が伝わっている。語源解釈としては、萱野茂によると「スルク=毒・ウン=ある・コツ=くぼ地=場所」とされている。</p>		
価値	アイヌの生活文化を物語る伝承地として重要		
保存の対象と方針	土地の形質を保全する。		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土 ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 		

番号	VIII_2	名称	ウカエロシキ
			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地・河岸段丘及び低地		
類型	伝承地		
面積	1.6ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	字二風谷 131-2・3		
所有者	沙流川森林組合		
概要	<p>にぶたに湖右岸に大きく張り出す3段の頂きを持つ特徴的な岩塊である。別名「ペウレブオッカ（＝若い熊いる場所）」とも呼ばれ、下流側から眺望すると大きな熊が山を駆け上がる姿のような形状に見える。アイヌの伝説ではオキクルミカムイにより親子連れの熊が岩石にされた岩とされ、地域の人々から「熊の姿岩」と呼ばれている。2018（平成30）年の北海道胆振東部地震の際に親熊の頭部に当たる部分が崩落し、その崩落部分は現在崖下に保存されている。</p>		
価値	<p>沙流川流域の特徴的な自然・地形に暮らしたアイヌのコスモロジーを理解するための伝承地として重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土 ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 		

番号	VIII_3	名称	コタン通り
写真			
景観の層	③～現代	位置図	
地形区分	山地・低地及び河岸段丘		
類型	道		
面積	0.5ha		
文化財等の指定状況	—		
所在地	字二風谷 39-21・22・23・24、40-5、40-11、263、306		
所有者	国土交通省、平取町		
概要	<p>1892（明治 25）年に二風谷小学校が設立されたことによりつくられた集落の主要道路（二風谷・町道二風谷学校前線）である。このコタン通りはユオイ沢に沿った河岸段丘上に形成されており、沙流川からの比高は約12mの低位段丘面であり、自然の地形を生かして水害を避け河岸段丘上に集落を形成していたことがわかる。現在も通称「コタン通り」と呼ばれている。</p>		
価値	コタンの立地や集落構造を理解する上で重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質と道路の線形を保全する 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土 ・道路の線形的大幅な変更（道路幅員の拡幅やそれに伴う線形の軽微な変更を除く） 		

番号	VIII_4	名称	マンロー坂 (国道 237 号線旧道)
写真			
景観の層	③～現代	位置図	
地形区分	山地・低地及び河岸段丘		
類型	道		
面積	3.5ha		
文化財等の指定状況	—		
所在地	字二風谷 53-1、311、312、313		
所有者	国土交通省・平取町		
概要	<p>国道 237 号線からオサツ沢右岸側に入りマンロー邸へとつながる坂道である。沙流川との比高は国道からの入り口で約 23m、マンロー邸入り口前で約 26m と緩やかな坂になっている。マンローの没後 80 年となる今でも「マンロー坂」と呼ばれ、ニール・ゴードン・マンローが地域住民から「マンローさん」と呼ばれ親しまれてきたことを今に伝えている。現在は、国道建設によって分断され、マンロー坂として残る道路は一部となっている。</p>		
価値	<p>明治期におけるマンローと地域住民との関わりや当時の集落周辺の道筋を理解する上で重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質と道路の線形を保全する 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土 ・道路の線形の変更（道路幅員の拡幅やそれに伴う線形の軽微な変更を除く） 		

番号	VIII_5	名称	ルオマナイ
写真			
景観の層	③～④	位置図	
地形区分	山地・低地及び河岸段丘		
類型	道		
面積	107.1ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	字二風谷 130-1・4		
所有者	平取町		
概要	<p>沙流川左岸の支流の沢で、古くから二風谷から穂別へ抜ける生活用道路として活用されてきた山道である。現在では、わずかな踏み跡が残る程度となっているが、昭和中期までは頻繁に使われていたという。河川名称の語源の解釈は諸説あり、松浦武四郎の記録には「ルヲマナイ」：「其名義は此川まゝ路有りと云儀のよし也」と記載されている。また、『シシリムカのアイヌ語地名研究』には、「ルオマナイ」：「ru-oma-nay=道-(そこに)ある-沢(川)」とされている。『沙流川沿いの地名』には「ルオマナイ」：「ル=道・オマ=入る、居る・ナイ=沢」と記載されている。</p>		
価値	古くから沢をつたって山を超え、集落間を行き来していた当時の生活文化を物語る要素として重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ その道筋の地理情報を記録し、土地の形質及び沢の流路（道の線形）を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土地の掘削、盛土、切土 ・ 沢の流路（道の線形）の大幅な変更 		

番号	VIII_6	名称	旧二風谷青年会図書館
写真			
景観の層	④	位置図	
地形区分	低地及び河岸段丘		
類型	建造物		
面積	1.8ha		
文化財等の指定状況	—		
所在地	字二風谷 28-1		
所有者	二風谷自治会		
概要	<p>1911（明治 44）年、校舎建築時の残り材で青年会が建設した建物である。1927（昭和 2）年、2 学級となり新しい校舎が増築された昭和 4 年まで教室として使われていた。北海道で開館された図書館としては 2 番目に古い施設と言われている。1954（昭和 29）年、現校舎を改築する時に国道側の現在地に移し、青年団の集会所として利用されていた。</p>		
価値	<p>地域住民によって守り伝えられてきた建造物から、当時の生活文化や地域住民の認識を理解する上で重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築物の外観を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築物の外観の変更 		

番号	VIII_7	名称	旧マンロー邸
写真			
景観の層	④	位置図	
地形区分	低地及び河岸段丘		
類型	建造物		
面積	1.5ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	字二風谷 51-2,54-1・2・3		
所有者	北海道大学		
概要	<p>1933（昭和8）年ニール・ゴードン・マンローの書齋兼診療所を含む自宅として建設された建物である。マンローは地域住民への医療奉仕のほか人類学者、考古学者としてイオマンテの映像資料を残すなど、アイヌ文化研究にも大きな功績を残した人物である。現在も毎年6月に旧マンロー邸前で「マンロー先生を偲ぶ会」が開催される等、地域住民との深いつながりや地域史を伝える役割を持つ。沙流川流域には数多くの外国人研究者が訪れたが、その歴史を示す代表例として重要である。現在は北海道大学文学部の二風谷分室となっている。</p>		
価値	近代におけるマンローの功績をはじめとした近代の二風谷の歴史を理解する上で重要		
保存の対象と方針	・ 建築物の外観を保全する。		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	・ 建築物の外観の変更		

番号	VIII_8	名称	平取町立二風谷アイヌ文化博物館とチセ群
写真			
景観の層	⑤	位置図	
地形区分	低地及び河岸段丘		
類型	建造物		
面積	2.0ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観 (一次、四次)		
所在地	字二風谷 55-14 他		
所有者	平取町		
概要	<p>1992(平成4)年4月にオープンした平取町立のアイヌ文化博物館である。重要有形民俗文化財「北海道二風谷及び周辺地域のアイヌ生活用具コレクション」をはじめとしたアイヌの民具のほか、数多くの視聴覚資料、関係図書等が納められている。博物館の前面には復元されたチセが9棟並ぶ二風谷コタンが整備されている。アイヌの歴史文化を後世に伝えていく役割を持った学芸活動の拠点である。</p>		
価値	<p>地域のアイヌ文化の継承・振興の拠点地区である二風谷を象徴する要素として重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・建物(博物館及びチセ9棟)の外観及び位置を保存する。また、アイヌ文化振興に関わる機能を継承する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・学術的知見に基づかないチセの修理、改築 ・アイヌ文化振興に関わる機能の喪失 		

番号	VIII_9	名称	二風谷子ども図書館
写真			
景観の層	⑤	位置図	
地形区分	低地及び河岸段丘		
類型	建造物		
面積	0.5ha		
文化財等の指定状況	—		
所在地	字二風谷 79-3		
所有者	民間		
概要	<p>1983（昭和 58）年、萱野茂氏によって建設されたアイヌ語教育を行うための建物である。萱野茂氏は、「二風谷アイヌ語塾」の塾長として、地域の小・中学生を指導した。また、2001（平成 13）年 4 月開始のアイヌ語のラジオ「FM ピバウシ」の放送や 1997（平成 9）年 3 月創刊のアイヌ語で書かれた新聞「アイヌタイムズ」の発行等もこの施設を拠点に行われた。萱野志朗氏等の尽力により活動の一部は場所を移して引き継がれている。</p>		
価値	アイヌ文化、特に二風谷地域におけるアイヌ文化継承活動の象徴として重要		
保存の対象と方針	・ 建築物の外観・位置を保存する。		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	・ 建築物の外観及び位置の変更		

番号	VIII_10	名称	黒田彦三頌徳碑
写真			
景観の層	⑤	位置図	
地形区分	低地及び河岸段丘		
類型	碑		
面積	—		
文化財等の指定状況	—		
所在地	字二風谷 28-1		
所有者	二風谷自治会		
概要	<p>1970（昭和 45）年、黒田氏を慕う当時の教え子たちによって建立された頌徳碑である。黒田彦三は、1894（明治 27）年に初代二風谷小学校校長として着任し 1927（昭和 2）年まで 33 年間にわたって二風谷の中心的な指導者として児童の教育と地域発展に寄与した。アイヌ語で生活している子どもたちに日本語を教え、生まれた子どもにも日本名をつけて役場に届け、家庭内の問題解決も担ったという。特に青年の教育に注力し、夜学会を開いたほか、青年会の活動の一助として旧二風谷青年図書館の建設にも貢献した。退職後も村会議員として村政に参画するなど教育功労者として顕彰されることも多かったと言われる。</p>		
価値	教育と生活向上に注力した二風谷地域住民の精神を象徴する要素として重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 石碑の外観及び位置を保存する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・ 石碑の外観の変更 ・ 石碑の位置の変更 		

番号	VIII_11	名称	遠星北斗歌碑
写真			
景観の層	④	位置図	
地形区分	低地及び河岸段丘		
類型	碑		
面積	—		
文化財等の指定状況	—		
所在地	字二風谷 28-1		
所有者	二風谷自治会		
概要	<p>1968（昭和 43）年に建立された遠星北斗の短歌二首を刻んだ歌碑である。遠星北斗は、1902（明治 35）年に余市町で生まれたアイヌ民族の歌人であり、アイヌ民族復興の使命を抱いて各地をまわって地位向上の運動を行い、1926（大正 15）年に平取に滞在した。二風谷小学校の校舎改築の際に北海道教育委員会の木呂子俊彦が「二風谷の子供に北斗の精神を学ばせ受け継がせたい」と発案し、父兄の労力奉仕によって台座が作られるなど、地域住民が大切に受け継いでいる。碑の裏面には金田一京助の書が刻まれている。</p>		
価値	<p>アイヌ文化の地位向上を目指した遠星北斗の精神を受け継ぐことに尽力した二風谷地域住民の意思を象徴する要素として重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・石碑の外観及び位置を保存する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・石碑の外観の変更 ・石碑の位置の変更 		

番号	VIII_12	名称	ボンオサツの湧き水跡地碑
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	低地及び河岸段丘		
類型	碑		
面積	—		
文化財等の指定状況	—		
所在地	字二風谷 41-23		
所有者	国土交通省		
概要	<p>アシリピパウシ周辺（オサツ川より下流域）の人たちが飲んでいた湧き水の跡地に立つ記念碑である。水汲みをするときに、まじない言葉を唱えながら水を汲んだと伝えられる等、当時の生活の一端を知ることができる。現在は水が湧き出てなくなってしまったが、生活用水の場として大切にしてきたという地域住民の思いや、生活と集落の変遷を窺い知ることができる。</p>		
価値	<p>集落の生活にとって必要な水源であり、集落立地や当時の生活文化を理解する上で重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・石碑の外観及び位置を保存する 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・石碑の外観の変更 ・石碑の位置の変更 		


番号	VIII_13	名称	金田一京助歌碑
写真			
景観の層	④	位置図	
地形区分	低地及び河岸段丘		
類型	碑		
面積	—		
文化財等の指定状況	—		
所在地	字二風谷 78-3		
所有者	萱野観光株式会社		
概要	<p>1968（昭和 43）年に建立された、アイヌ語の研究者として平取町に深くかかわった金田一京助の歌碑である。金田一京助はアイヌの口承文芸「ユカラ（英雄叙事詩）」を世界的に有名にし、アイヌ文化研究の発展に貢献した。歌碑は沙流川で採掘された庭造りに活用される観賞石が用いられており、この地域の造園業の歴史を伝える役割も持つ。</p>		
価値	<p>半世紀以上に渡り保存されてきた石碑であり、アイヌ語・アイヌ文化研究と地域の生業を象徴する要素として重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・石碑の外観及び位置を保存する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・石碑の外観の変更 ・石碑の位置の変更 		

IX カンカンコタンのイウォロ

番号	IX_1	名称	オプシヌプリ
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地・河岸段丘及び低地		
類型	伝承地		
面積	7.3ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	にぶたに湖右岸国有林1001_林班_いの一部		
所有者	林野庁		
概要	<p>アイヌの伝承が残された、稜線に馬蹄形の穴が開いている特長的な形態をした山容である。アイヌの伝説では、人々に生活文化を教えたオキクルミカムイが、ヨモギの矢で打ち抜いた穴と伝えられている。1898（明治31）年の大水害の時までは、馬蹄形の上の部分が繋がっており、穴の状態だったと言われている。夏至前後には対岸の視点場からこの穴に夕日が沈む。</p>		
価値	<p>沙流川流域の特徴的な自然・地形に暮らしたアイヌのコスモロジーを理解するための伝承地として重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全する 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土 ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 		

X ペナコリコタンのイウオロ

番号	X_1	名称	ペナコリのタプコプ
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地・河岸段丘及び低地		
類型	伝承地		
面積	275.5ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（二次）		
所在地	字荷負 193-1・2 の一部		
所有者	三井物産株式会社		
概要	<p>ペナコリの集落の背後に聳える、荷負からもよく見える特徴的な山である。標高は 293m、沙流川との比高約 247m で、三角点などとも呼ばれ、頂上からは日高町富川方面の海も見えるという。タプコプは小さな山、丸い山、あたりから見て目立つ山という意味である。特徴的な地形を目印として活用していたと考えられる。現在は三井物産社有林となっている。</p>		
価値	<p>沙流川流域の特徴的な自然・地形に暮らしたアイヌのコスモロジーを理解するための伝承地として重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土（計画的な森林施業における作業道などは除く） ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 		

番号	X_2	名称	ペナコリコタン跡の生活道路
写真			
景観の層	③～⑤	位置図	
地形区分	山地・低地及び河岸段丘		
類型	道		
面積	0.7ha		
文化財等の指定状況	—		
所在地	字荷負 27-6 他 (町道荷負ペナコレ線)		
所有者	平取町		
概要	<p>ペナコリコタンと呼ばれていた時代から変わらない集落の主要道路である。1939（昭和 14）年頃までは実際にチセが建ち並んでいた。沙流川との比高約 21m の河岸段丘上に位置している。近くの段丘崖には湧水地も残されている。</p>		
価値	コタンの立地や集落構造を理解する上で重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質と道路の線形を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土 ・道路の線形の変更 		

XI シケレペコタンのイウォロ

番号	XI_1	名称	イムチトヌプリ (荷負富士)
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地・河岸段丘及び低地		
類型	伝承地		
面積	237.8ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観 (二次)		
所在地	字荷負 193-1 の一部		
所有者	三井物産株式会社		
概要	<p>沙流川と額平川の合流地点を見下ろす標高 194m の山である。額平川やその対岸からは河岸段丘斜面の険しい崖の上に大きく聳えて見える。オキクルミがペンケチトゥカンピラ (額平川の支流である貫気別川沿いの尖った岩山) からイムチトヌプリを狙ってやりを投げたが、それによってオプシヌプリに穴を開けたとする伝承が残されている。近隣の荷負小学校では登山遠足で登るような、地域住民にとって身近な山である。</p>		
価値	<p>沙流川流域の特徴的な自然・地形に暮らしたアイヌのコスモロジーを理解するための伝承地として重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土 (計画的な森林施業における作業道などは除く) ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 		

番号	XI_2	名称	ムイノカ
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地・河岸段丘及び低地		
類型	伝承地		
面積	237.8ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（二次）、名勝ピリカノカ		
所在地	字荷負 193-1 の一部		
所有者	三井物産株式会社		
概要	<p>額平川沿いの切り立った山並みが重なり合う中にある、半月形に露出した特徴的な岩肌の伝承地である。アイヌの伝承では、オキクルミカムイの妻がカムイの世界へ戻るとき、名残惜しみ、忘れていった半月形の「箕(み)の形象」とされている。</p>		
価値	<p>沙流川流域の特徴的な自然・地形に暮らしたアイヌのコスモロジーを理解するための伝承地として重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土（計画的な森林施業における作業道などは除く） ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 		

番号	XI_3	名称	オキクルミのチャシ
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地・河岸段丘及び低地		
類型	伝承地		
面積	237.8ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（二次）、名勝ピリカノカ		
所在地	字荷負 193-1 の一部		
所有者	三井物産株式会社		
概要	<p>額平川沿いの切り立った山並みが重なり合う中で一際切り立った岩肌が目立つ標高約 180m の崖山の伝承地である。アイヌの伝承ではアイヌに生活文化を教えたとされるオキクルミカムイの好んだ荷負での拠点（住処）とされている。</p>		
価値	<p>沙流川流域の特徴的な自然・地形に暮らしたアイヌのコスモロジーを理解するための伝承地として重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土（計画的な森林施業における作業道などは除く） ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 		

XII ニオイコタンのイウオロ


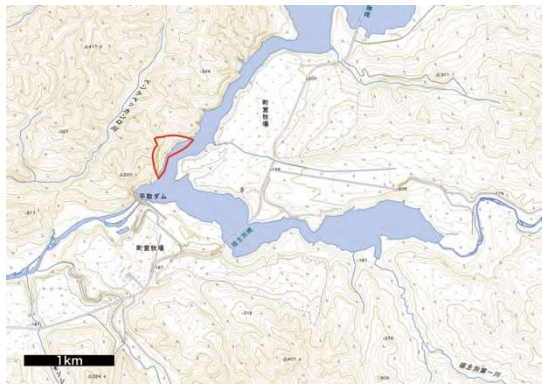
番号	XII_1	名称	ウンチャシ跡
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地・河岸段丘及び低地		
類型	伝承地		
面積	303.5ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（二次）		
所在地	字貫気別 202-1 の一部		
所有者	三井物産株式会社		
概要	<p>額平川左岸の段丘に残されたチャシ跡である。ここに残る伝承は、近くにあるニオイチャシ跡とともに語られる。また、古くから「雨乞いの儀礼」が行われていた場所といわれており、この地域でのかつての暮らしぶりを今に伝える場所でもある。ただし、ウンチャシ跡の正確な位置については伝承者によって異なる傾向がみられる。</p>		
価値	<p>かつてのアイヌの生活文化やコタンのイウオロにおけるチャシの役割・立地的特徴を理解する上で重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土（計画的な森林施業における作業道などは除く） ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 		


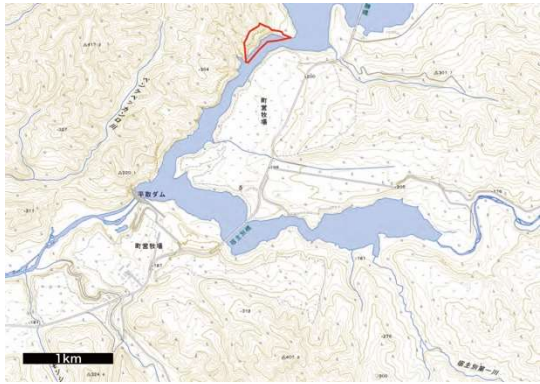
番号	XII_2	名称	ペンケニオイコタン跡の生活道路
写真			
景観の層	③～⑤	位置図	
地形区分	山地・低地及び河岸段丘		
類型	道		
面積	約 1.4ha		
文化財等の指定状況	—		
所在地	字貫気別 1-10 他 (町道荷負本線・本村市街線)		
所有者	平取町、北海道、国土交通省		
概要	<p>松浦武四郎の記録に残るニオイ村のコタンがあった頃からある集落の主要道路である。松浦武四郎の記録では対岸の「ハンケニオイ」と呼ばれる沢のそばにもコタンがあったが、その後水害に遭い、ハンケニオイの住民はこのペンケニオイに移り住んだといわれている。額平川との比高約 38m の 2 段目の河岸段丘面の縁に沿った形状は、当時の生活空間の構造を今に伝えている。また、水害を避けるための高台立地や、湧水地が近くにあるという立地条件から、当時の集落形成の考え方を窺い知ることができる。</p>		
価値	コタンの立地や集落構造を理解する上で重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質と道路の線形を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土 ・道路の線形の変更 		

XIII-1 ヌツケベツコタンのイウォロ-1

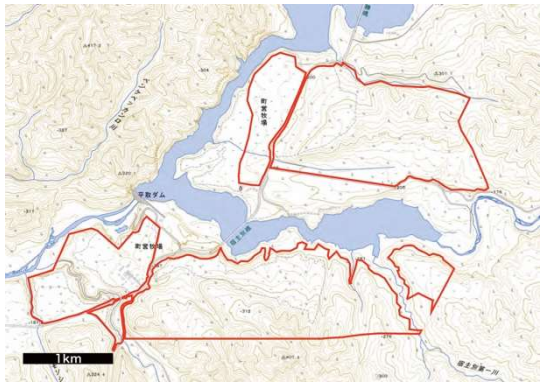
番号	XIII-1_1	名称	シュプンタップコブ
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地・河岸段丘及び低地		
類型	伝承地		
面積	428.4ha		
文化財等の指定状況	—		
所在地	字貫気別 110-6・8・10 の一部		
所有者	北海道、三井物産株式会社		
概要	<p>標高は 281m、比高約 211m であり、写真のように周囲から抜き出て目立つことからヌツケベツコタンのタップコブであったと伝えられている。シュプンはアイヌ語でウグイを意味するが、スム（西）という言葉が訛った可能性があると言われている。タップコブは小さな山、丸い山、あたりから見て目立つ山という意味である。目立つので目印として地形を活用していたと考えられる。</p>		
価値	<p>沙流川流域の特徴的な自然・地形に暮らしたアイヌのコスモロジーを理解するための伝承地として重要</p>		
保存の対象と方針	<p>土地の形質を保全する。</p>		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土（計画的な森林施業における作業道などは除く） ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 		


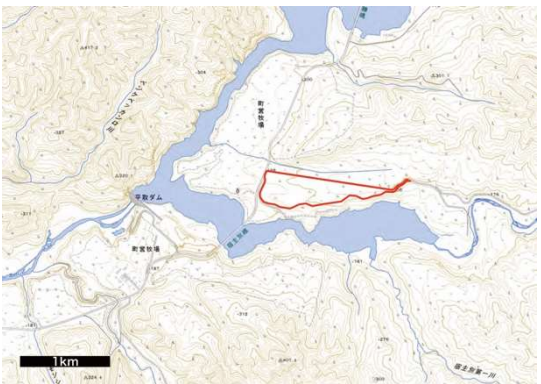
番号	XIII-1_2	名称	イペベシナイ
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地・河岸段丘及び低地		
類型	伝承地		
面積	3.0ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（二次）		
所在地	字貫気別河川用地の一部		
所有者	三井物産株式会社		
概要	<p>古くから水量が豊かで、多くのアイヌが生活の拠り所として利用してきた沢といわれている。この沢の近くに立地していたと伝わる「フシココタン（huskokotan：ふるい集落）」があった時代は、山野草が多く繁茂し、食料となる獲物の宝庫であったと伝えられている。</p>		
価値	イウォロにおけるアイヌの生活文化を理解する上で重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全し、河川の流路を大幅に改変しない。また周辺の自然生態系の保全に努める。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・流路の大幅な変更、土地の掘削、盛土、切土 ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 ・河畔林の生態系に著しい影響を与える樹木の伐採（計画的な森林施業に関する行為を除く） 		

番号	XIII-1_3	名称	チノミシリ2
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地・河岸段丘及び低地		
類型	伝承地		
面積	約 3.4ha		
文化財等の指定状況	—		
所在地	字芽生 98-2、121		
所有者	国土交通省		
概要	<p>アイヌの人々にとって大切な信仰地、遥拝の対象である。額平川右岸の山崖の特徴的で目立った地形は、狩猟等の移動の際の目印としても活用されていたと考えられる。ノカピライウォロ・ビジターセンターからフットパスが整備され、祈りの場「レ チノミシリ ミンタラ (眺望・祈りの場 3)」が設置されている。</p>		
価値	<p>沙流川流域の特徴的な自然・地形に暮らしたアイヌのコスモロジーを理解するための伝承地として重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土 ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 		

番号	XIII-1_4	名称	チノミシリ1
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地・河岸段丘及び低地		
類型	伝承地		
面積	約 2.7ha		
文化財等の指定状況	—		
所在地	字芽生 100-3		
所有者	国土交通省		
概要	<p>アイヌの人々にとって大切な信仰地、遥拝の対象である。額平川右岸の山崖の特徴的で目立った地形は、狩猟等の移動の際の目印としても活用されていたと考えられる。ノカピライウォロ・ビジターセンターからフットパスが整備され、祈りの場「レ チノミシリ ミンタラ（眺望・祈りの場3）」が設置されている。</p>		
価値	<p>沙流川流域の特徴的な自然・地形に暮らしたアイヌのコスモロジーを理解するための伝承地として重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土 ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 		

番号	XIII-1_5	名称	馬頭観世音碑
写真			
景観の層	④	位置図	
地形区分	低地及び河岸段丘		
類型	碑		
面積	0.6ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	字芽生 105		
所有者	平取町		
概要	<p>1948（昭和 23）年 7 月 21 日、中澤清八他有志によって建立された碑である。額平川との比高約 46m の河岸段丘面に形成された集落に位置し、アイヌと和人と思われる名前が彫られており、馬とともに農耕に励んだ生業と開拓の歴史を今に伝えている。8 月 17 日が祭日で、祭りの世話はその年の祭典実行委員会が担当する。</p>		
価値	芽生の近代開拓におけるアイヌと和人の協働の歴史を伝える要素として重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・石碑の外観及び位置を保存する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・石碑の外観の変更 ・石碑の位置の変更 		

番号	XIII-1_6	名称	「びらとり和牛」が放牧されている牧野
写真			
景観の層	④	位置図	
地形区分	低地及び河岸段丘		
類型	農地・牧野		
面積	367.8ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	字芽生 82-1・6、82-6、83-1、84-2、85-1・2		
所有者	平取町		
概要	<p>額平川との比高約 35mの河岸段丘面平坦部に形成された牧野である。広大とは言えないが切り立った山並みに囲まれ、牧野内には黒毛和種の「びらとり和牛」と主にハルニレの日陰林からなる中景など整った近代農業景観を創出している。額平川上流では、明治以降、軍馬、乳牛、肉牛の畜産業が盛んにおこなわれ、多くの放牧地が設けられてきた。</p>		
価値	近代以降の畜産業の歴史を伝えるもの要素として重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質および牧野としての土地利用を保存する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土 ・牧野に関連しない建築物、工作物の新築 		

番号	XIII-1_7	名称	すずらん群生地
写真			
景観の層	④～⑤	位置図	
地形区分	低地及び河岸段丘		
類型	農地・牧野		
面積	18.5ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	字芽生 82-7		
所有者	平取町		
概要	<p>牧野林のもとの軍馬等の「過放牧」が生み出した特徴的な林床の植生地である。日本一の広さを誇るこの「すずらん群生地」は、近くの丘陵の水が傾斜により流れ込む湿潤な土地であり、放牧された軍馬が有毒のすずらんを避けて餌となる他の草本を食べたためすずらんばかりが残された結果形成された。馬の放牧時にはアイヌが従事し、付近の崖地を信仰の対象とした。放牧が行われなくなった現在はボランティア等人の手による維持活動が行われ、すずらん開花時期の鑑賞会には町内外から多くの人を訪れる。</p>		
価値	<p>軍馬生産という地域の生業とその変遷において、アイヌの伝統と近代開拓の重層を示すものとして重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質及びその植生を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土 ・植生に影響を与える周辺樹木の伐採 すずらんの生育に大きな影響をあたえる周辺樹木の伐採 		

番号	XIII-1_8	名称	ハルニレ林
写真			
景観の層	④～⑤	位置図	
地形区分	低地及び河岸段丘		
類型	農地・牧野		
面積	9.3ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	字芽生 82-5		
所有者	国土交通省		
概要	<p>沙流川流域では、河畔林としてのハルニレ林が多くみられる。これは広大で荒々しい流れであった沙流川が、その河畔を良く壊し、河畔林の更新を頻繁に行っていたことを物語っている。今日の北海道における森林植生の中で稀な存在となったハルニレ林は、アイヌの伝統と近代開拓語る上で大事な特性と言える。</p>		
価値	<p>かつてアイヌが暮らした文化的基盤としての自然環境の特徴を理解する上で重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質および牧野としての土地利用を保存する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土 ・牧野に関連しない建築物、工作物の新築 		

番号	XIII-1_9	名称	牧野林
写真			
景観の層	④～⑤	位置図	
地形区分	低地及び河岸段丘		
類型	農地・牧野		
面積	48.3ha		
文化財等の指定状況	一部は重要文化的景観（一次）		
所在地	字芽生 84-2		
所有者	平取町		
概要	<p>額平川により形成された比高約 35mの河岸段丘に立地した、明治以降、芽生地区で営まれてきた農耕馬や軍馬生産、そしてそのあとに肉牛や乳牛の生産へと生業の変化の歴史を持った牧野林である。令和 4 (2022) 年にはノカピライウォロ・ビジターセンターの建設に伴い、3 箇所のチノミシリとその祈りの場を巡るフットパスコースが整備されている。かつて馬番兵を務めていたアイヌの人々の生業</p>		
価値	<p>アイヌの精神文化を受け継いだ近代以降の地域の歴史と産業の成り立ちを物語る要素として重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質および牧野としての土地利用を保存する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土 ・牧野に関連しない建築物、工作物の新築 		

番号	XIII-1_10	名称	ノカピライウォロ標本園
写真			
景観の層	⑤	位置図	
地形区分	低地及び河岸段丘・河川		
類型	森林		
面積	5.4ha		
文化財等の指定状況	-		
所在地	字芽生 82-3		
所有者	国土交通省		
概要	平取ダムの建設にともなって整備された、アイヌの暮らしを支えた伝統的利用植物を栽培するアイヌ文化の継承活動の拠点施設である。		
価値	かつての自然環境の再生に向けた現代の文化復興の取り組みを理解する上で重要		
保存の対象と方針	・ 周辺環境を含めた伝統的利用植物とその生育環境を保全する。		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標本園の管理・造成以外の造林及び管理以外の目的で行われる土地の掘削、盛土、切土 ・ 標本園の管理・造成以外の目的で行われる伝統的利用植物の生育環境に大きな影響を与える有用植物の育成環境に影響を与える周辺樹木の伐採 		

番号	XIII-1_11	名称	河岸段丘上の河畔林（芽生）
写真			
景観の層	①	位置図	
地形区分	低地及び河岸段丘		
類型	河畔林		
面積	7.0ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	字芽生 38-7、河川用地の一部		
所有者	平取町		
概要	<p>芽生の開拓地と蛇行する河川の境界部、河岸段丘上に連続的に残る河畔林である。主体となる構成樹種からは、開拓以前にはハルニレ林が広がっていたことを思わせる。また農地側から河畔林越しに連続する対岸側の切り立った山並みも雄大な景観を構成する。</p>		
価値	<p>額平川流域のかつてのアイヌが暮らした時代の原生自然を想起させる上で重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全し、河川の流路を大幅に改変しない。また周辺の自然生態系の保全に努める。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・流路の大幅な変更 ・土地の掘削、盛土、切土 ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 ・河畔林の生態系に著しい影響を与える樹木の伐採 		

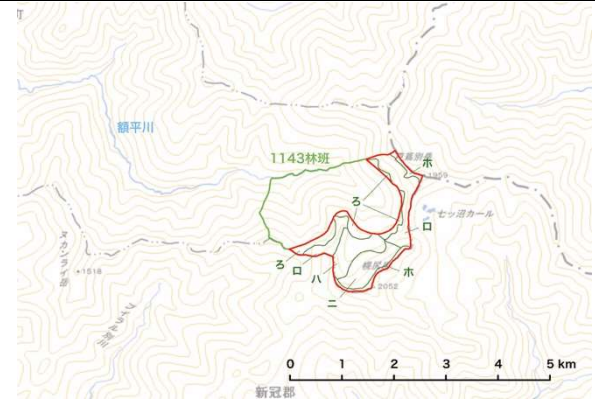
番号	XIII-1_12	名称	額平川の河畔林
写真			
景観の層	①	位置図	
地形区分	河川		
類型	河畔林		
面積	228.5ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	沙流郡平取町字芽生 38-10、河川用地の一部		
所有者	北海道		
概要	額平川流域に連続的に残る河畔林である。大きく蛇行する額平川の迫力ある河川景観を成立させている。		
価値	額平川の河川の特徴を理解する上で重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全し、河川の流路を大幅に改変しない。また周辺の自然生態系の保全に努める。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・流路の大幅な変更 ・土地の掘削、盛土、切土 ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 ・河畔林の生態系に著しい影響を与える樹木の伐採 		

番号	XIII-1_13	名称	額平川の峡谷
写真			
景観の層	①	位置図	
地形区分	河川		
類型	河川		
面積	228.5ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	字貫気別、字芽生河川用地の一部		
所有者	北海道		
概要	<p>芽生周辺の額平川は、大きく蛇行する河川によって削られた切り立った溪谷が形成されている。露出する岩壁と樹林のコントラストが美しい自然景観を創出、アイヌの伝説なども生まれている。</p>		
価値	額平川の河川の特徴を理解する上で重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全し、河川の流路を大幅に改変しない。また周辺の自然生態系の保全に努める。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・流路の大幅な変更 ・土地の掘削、盛土、切土 ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 ・河畔林の生態系に著しい影響を与える樹木の伐採 		

番号	XIII-1_14	名称	額平川の蛇行
写真			
景観の層	①	位置図	
地形区分	河川		
類型	河川		
面積	228.5ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	字貫気別、字芽生河川用地の一部		
所有者	北海道		
概要	<p>額平川は大きく左右に褶曲を繰り返し、雄大で力強い河岸段丘をつくり出している。河岸段丘上には、切り立った段丘崖、氾濫原が眺望できる優れた視点場が存在している。</p>		
価値	額平川の河川の特徴を理解する上で重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全し、河川の流路を大幅に人為的に改変しない。また周辺の自然生態系の保全に努める。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・流路の大幅な変更 ・土地の掘削、盛土、切土 ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 ・河畔林の生態系に著しい影響を与える樹木の伐採 		

XIII-2 スプキペッコタンのイウオロ-2

番号	XIII-2_1	名称	アオトラ石の露頭地
写真	 <p>写真：ストゥニ（シドニ）沢（左）とアオトラ石（右）</p>		
景観の層	②	位置図	
地形区分	山地		
類型	岩石資源		
面積	101.49ha		
文化財等の指定状況	日高山脈襟裳十勝国立公園		
所在地	岩内国有林 1173 林班（い_2,ろ小班）		
所有者	林野庁		
概要	<p>青緑色や灰緑色の美しい縞模様が特徴のアオトラ石の露頭地である。アオトラ石は、古く縄文時代から石斧として利用され、北海道内のみならず本州にも流通していたことが明らかになっている。現在は鑑賞石として利用される。縄文時代の石器素材として国内でも希少な産地であり、現代の生業に結びついた資源地として受け継がれてきている。</p>		
価値	<p>縄文時代から現代に至るまで利用されてきた額平川原流域の岩石資源の存在を知る上で重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・アオトラ石等の岩石資源を保全する 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・対象林班の1/2を超えるほどの岩石資源の過剰な採掘・掘削（計画的な森林施業及びそれに関連する作業道・土場等の整備・維持管理、治山事業、災害復旧等に関する行為を除く） 		


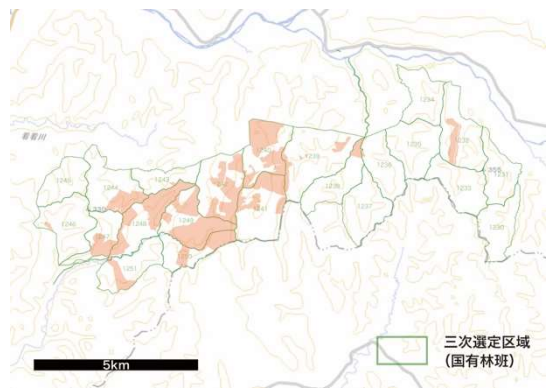
番号	XIII-2_2	名称	ポロシリ（幌尻岳）
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地		
類型	伝承地		
面積	217.3ha		
文化財等の指定状況	名勝ピリカノカ、日高山脈襟裳十勝国立公園		
所在地	岩内国有林 1173 林班(ろ,ロ,ハ,ニ,ホ小班)		
所有者	林野庁		
概要	<p>標高 2,052m の日高山脈の主峰である。ポロシリは、神の住む庭があって人が立ち入ってはいけないなどの伝承が残されており、沙流川流域のアイヌにとっての精神文化や信仰の象徴であって、特に神聖な場所とされてきた。1960 年代以降は、深田久弥による山岳随筆である「日本百名山」にも選定され、より多くの愛好家で賑わうようになっており、現在は年 3,000 人（7～9 月の 3 ヶ月間）を超える登山者が集まる。</p>		
価値	<p>沙流川流域の特徴的な自然・地形に暮らしたアイヌのコスモロジーを理解するための伝承地として重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全する 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土 ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 <p>（計画的な森林施業及びそれに関連する作業道・土場等の整備・維持管理、治山事業、災害復旧等に関する行為を除く）</p>		

XVII 複数のイウォロにまたがる構成要素

番号	XVII_1	名称	沙流山林南区域の森林
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地		
類型	森林		
面積	3,097.3ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（二次）		
所在地	字小平他		
所有者	三井物産株式会社		
概要	<p>アベツ川流域は、幕末以降明治の社会基盤整備が進むまで、平取コタンの暮らしを支えるイウォロとして重要な役割を担ってきた。他の小河川に比べて著しく多いアイヌ語地名は、その重要性と利用頻度を物語っている。明治以降には、アベツ・カンカン・貫気別地区などで大規模な林業による造材、炭焼きが行われ、近代開拓による施業林としての管理は、明治後半代以降の基幹産業の姿を今に伝えている。本来的な針広混交林も含め、人と森林が関わってきた地域の移り変わりや今を様々にみることができる。荷負地区ではアイヌ文化の伝承地、急峻な崖地には原生的な針広混交林が保存されている。</p>		
価値	<p>かつてアイヌが暮らした文化的基盤としての自然環境の特徴と近代以降の産業の歴史を理解する上で重要</p>		
保存の対象と方針	<p>森林生態系を保全し、その基盤である土地の形質を保全する。</p>		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・造林以外の目的で行われる土地の掘削、盛土、切土（計画的な森林施業における作業道などは除く） ・森林生態系の機能を著しく損なうような森林伐採 		

番号	XVII_2	名称	生活民具の自然素材と文化を育む森林（もり）
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地		
類型	森林		
面積	2,365ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（三次）		
所在地	アベツ国有林1230林班他		
所有者	林野庁		
概要	<p>アイヌ生活民具は、子供のゆりかごから墓標までと人の生から死までの人の一生に関わっており、その素材を提供する森林は、とりわけ重要有形民俗文化財ならびに二風谷イタ、二風谷アットゥシの伝統的工芸品の指定を受ける平取町においては、地域の文化を育み暮らしを支えるものとして、重要な意味をもつ。</p>		
価値	古くから生活民具の素材を提供してきた森林として重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林生態系を保全し、その基盤である土地の形質を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・ 造林以外の目的で行われる土地の掘削、盛土、切土（計画的な森林施業における作業道などは除く） ・ 森林生態系の機能を著しく損なうような森林伐採 		

番号	XVII_3	名称	かつての姿を彷彿とさせる大径木も残る尾根筋の樹林
写真			
景観の層	④	位置図	
地形区分	山地		
類型	森林		
面積	358.14ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（三次）		
所在地	アベツ国有林 1240、1244、1249 林班		
所有者	林野庁		
概要	<p>この地域の原初的な森林の姿を想像することができる樹林である。ミズナラの大径木を通して、近代開拓により大径木が伐られていった林業の歴史と、大径木が伐採された後に天然更新した広葉樹が形成されてきた森林の変遷もうかがい知ることができる。直径は、①101cm、②154cm、③160cm、④178cmとなっている。</p>		
価値	この地域の原初的な森林の姿を想像することのできる要素として重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林生態系を保全し、その基盤である土地の形質を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土地の掘削、盛土、切土（計画的な森林施業における作業道などは除く） ・ 森林生態系の機能を著しく損なうような森林伐採 		

番号	XVII_4	名称	天然林化を目指すトドマツなどの針広混交林
写真			
景観の層	⑤	位置図	
地形区分	山地		
類型	森林		
面積	1,338.5ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（三次）		
所在地	アベツ国有林1232林班他		
所有者	林野庁		
概要	アイヌ文化を育んできたかつての天然林を目指す森林であり、アイヌ文化伝承の森事業の事業対象エリアでもある。		
価値	現代におけるアイヌ文化伝承の森づくりの活動を理解する上で重要		
保存の対象と方針	・ 森林生態系を保全し、その基盤である土地の形質を保全する。		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土地の掘削、盛土、切土（計画的な森林施業における作業道などは除く） ・ 森林生態系の機能を著しく損なうような森林伐採 		

番号	XVII_5	名称	イオルの森
写真			
景観の層	⑤	位置図	
地形区分	山地		
類型	森林		
面積	105.3ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	字二風谷 130-1		
所有者	平取町		
概要	<p>にぶたに湖右岸側に広がる広葉樹林は、イオル再生事業として、アイヌの生活文化に欠かせない伝統的利用植物を栽培採集できるエリアとして復元、再生させようとしている森林である。近年までは町有林として森林施業が行なわれていた。今後、「イオルの森」の取組みから特徴的な森林形態へと変化が期待されている。</p>		
価値	現代におけるアイヌ文化伝承の森づくりの活動を理解する上で重要		
保存の対象と方針	・森林生態系の保全・回復を目指し、その基盤である土地の形質を保全する。		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・造林以外の目的で行われる土地の掘削、盛土、切土 ・森林生態系の機能を著しく損なうような森林伐採 		

番号	XVII_6	名称	沙流川流域を見守るポロシリを遥拝する森林（もり）
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地		
類型	森林		
面積	240.3ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（三次）		
所在地	アベツ国有林 1240、1244 林班		
所有者	林野庁		
概要	<p>沙流川流域のアイヌにとって、ポロシリに宿るポロシルンカムイがもっとも重要な神として崇拝されている。ポロシリを遥拝できる尾根筋は、当地の森林を利用する人々が神への祈りを捧げる場所として重要な意味をもつ。</p>		
価値	<p>森林を利用してきたアイヌがこの地からポロシリを望んでいた当時の様子を窺い知ることのできる要素として重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林生態系を保全し、その基盤である土地の形質を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土地の掘削、盛土、切土（計画的な森林施業における作業道などは除く） ・ 森林生態系の機能を著しく損なうような森林伐採 		

番号	XVII_7	名称	にぶたに湖右岸の国有林
写真			
景観の層	⑤	位置図	
地形区分	山地		
類型	森林		
面積	1515.6ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	にぶたに湖右岸国有林 1001,1002,1003,1004 林班		
所有者	林野庁		
概要	<p>林業による伐採、植林の影響をあまり受けていない針広混交林が残る貴重な森林である。隣接する民有林では森林施業による広葉樹林へ変更されており、境界部においてはその対比が見て取れる。</p>		
価値	<p>かつてアイヌが暮らした文化的基盤としての自然環境の特徴を理解する上で重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林生態系を保全し、その基盤である土地の形質を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土地の掘削、盛土、切土（計画的な森林施業における作業道などは除く） ・ 森林生態系の機能を著しく損なうような森林伐採 		

番号	XVII_8	名称	入植者たちによる製炭業と集落形成を物語る炭窯跡
写真			
景観の層	④	位置図	
地形区分	山地		
類型	林業関連		
面積	99.2ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（三次）		
所在地	アベツ国有林 1251 林班		
所有者	林野庁		
概要	近代開拓による入植者の生業の一つ、かつて森林資源を用いて生活を支えた製炭業を物語る炭窯跡である。		
価値	近代における林業および製炭業の歴史を理解する上で重要		
保存の対象と方針	・ 地理情報を記録し土地の形質を保全する。		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	・ 土地の掘削、盛土、切土（計画的な森林施業における作業道などは除く）		

番号	XVII_9	名称	近代の伐出作業支えた馬搬道跡
写真			
景観の層	④	位置図	
地形区分	山地		
類型	林業関連		
面積	218.2ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（三次）		
所在地	アベツ国有林 1242、1245 林班		
所有者	林野庁		
概要	<p>林業で主に馬が使用されていた当時の伐出作業を物語る実際に作業した場所の道筋の跡である。</p>		
価値	<p>近代における林業の歴史を理解する上で重要</p>		
保存の対象と方針	<p>・その道筋の地理情報を記録し、土地の形質を保全する。</p>		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<p>・土地の掘削、盛土、切土（計画的な森林施業における作業道などは除く）</p>		


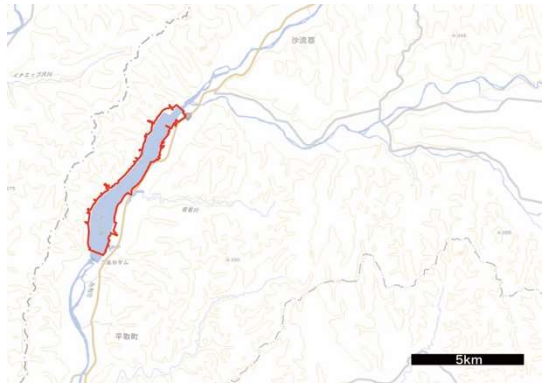
番号	XVII_10	名称	林業によりもたらされた作業の安全を願う山神様
写真			
景観の層	④	位置図	
地形区分	山地		
類型	林業関連		
面積	109.7ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（三次）		
所在地	アベツ国有林 1237 林班		
所有者	林野庁		
概要	<p>林業従事者の安全祈願のため、その山の一番良い木に鳥居と供物を置くための台を建てて祀られた祭壇である。地域の人々が生活のために林業に携わる中で自らと山の安全を願う山神信仰、そのシンボルとしての山神様は、森林と人との関わりを示す重要な意味をもつ。</p>		
価値	近代における林業の歴史を理解する上で重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工作物はその慣習に従って保存する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・ 慣習にならわない工作物の改変及び撤去 		


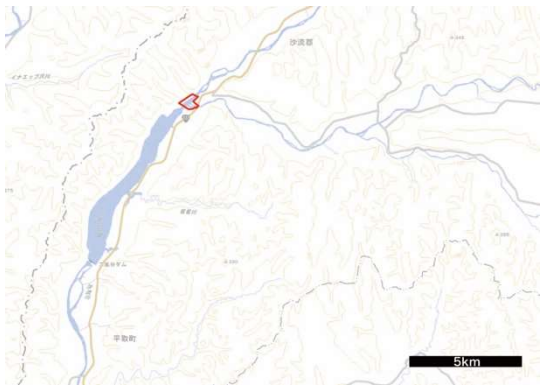
番号	XVII_11	名称	日高山脈の造山運動を想起させる堆積層の露頭
写真			
景観の層	④	位置図	
地形区分	山地		
類型	林業関連		
面積	176.8ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（三次）		
所在地	アベツ国有林 1239 林班		
所有者	林野庁		
概要	<p>日高山脈の造山運動の名残が見て取れる堆積層の露頭地である。また、国有林の林道開設・整備のために利用された歴史も有する。当地ならではの地層と産業の関わりを知ることができる重要な意味をもつ。</p>		
価値	造山運動をはじめとする近代の産業の歴史を理解する上で重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土（計画的な森林施業における作業道などは除く） ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 		

番号	XVII_12	名称	地域の賑わいをもたらした造園木のある森林（もり）
写真			
景観の層	④	位置図	
地形区分	山地		
類型	林業関連		
面積	263.4ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（三次）		
所在地	アベツ国有林 1231、1239 林班		
所有者	林野庁		
概要	<p>造園木として利用された樹木がわずかに残る森林である。現在の状況からも、地域の造園業が盛んだった当時と森との関わり、産業の変遷を知ることができる。</p>		
価値	地域の造園業との関わりを示す森林として重要		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林生態系を保全し、その基盤である土地の形質を保全する。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土地の掘削、盛土、切土（計画的な森林施業における作業道などは除く） ・ 森林生態系の機能を著しく損なうような森林伐採 		

番号	XVII_13	名称	IWOR としての利用を示すアイヌ語地名のある沢
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	山地・河岸段丘及び低地		
類型	伝承地		
面積	307.5ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（三次）		
所在地	アベツ国有林 1248、1249、1250 林班		
所有者	林野庁		
概要	アイヌ語の名前がつけられている沢である。そのアイヌ語の意味からは、この森林がコタン（集落）のIWOR（狩猟場・採取場）として狩猟や植物の採取に使われていたことがわかる。		
価値	アイヌと森林の関わりやその生活圏を理解する上で重要		
保存の対象と方針	・土地の形質を保全し、河川の流路を大幅に人為的に改変しない。また周辺の自然生態系の保全に努める。		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・流路の大幅な変更 ・土地の掘削、盛土、切土（計画的な森林施業における作業道などは除く） ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 ・河畔林の生態系に著しい影響を与える樹木の伐採 		

番号	XVII_14	名称	集落とIWORの空間、他の集落をつなぐ山道
写真			
景観の層	③～④	位置図	
地形区分	山地・低地及び河岸段丘		
類型	道		
面積	—		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（三次）		
所在地	アベツ国有林内のアベツ林道他		
所有者	林野庁		
概要	<p>安政3年（1856年）に幕史松浦武四郎が通り、昭和20年代まで利用されていた集落と森林、そして近隣集落間を結ぶ山道である。アイヌ文化や近代開拓に始まる林業をはじめとする人々の暮らしの痕跡がみて取れる。</p>		
価値	<p>集落間の移動や地域の人々が多く従事した林業の歴史を理解する上で重要</p>		
保存の対象と方針	<p>・その道筋の地理情報を記録し、土地の形質を保全する。</p>		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<p>・土地の掘削、盛土、切土（計画的な森林施業における作業道などは除く）</p>		

番号	XVII_15	名称	にぶたに湖
写真			
景観の層	⑤	位置図	
地形区分	河川		
類型	河川		
面積	346.6ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	字二風谷河川用地の一部		
所有者	国土交通省		
概要	<p>1997（平成9）年の二風谷ダム竣工により沙流川が堰き止められて造られた湖である。かつて河川の蛇行により形成された広大な氾濫原、その後農地としても活用されてきた沙流川の河川環境は、対岸側に水平に連続する森林と水面が穏やかに広がる状態へと変化した。</p> <p>にぶたに湖を挟む現在の姿は、集落地、文化振興エリア、山地林となっており、水辺空間も含めて様々なアイヌ文化の継承活動が行われている。また、湖面に接する右岸側の段丘縁は一部に平原林が残り、集落地近隣の森林植生の価値を今に伝えている。</p>		
価値	かつて沙流川流域に広がっていたイウォロ（狩場）と現代のアイヌ文化伝承の取り組みを理解する上で重要		
保存の対象と方針	・土地の形質を保全し、周辺の自然生態系の保全に努める。		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の掘削、盛土、切土 ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 ・河畔林の生態系に著しい影響を与える樹木の伐採 		

番号	XVII_16	名称	ペテウコピ
写真			
景観の層	③	位置図	
地形区分	河川		
類型	河川		
面積	17.1ha		
文化財等の指定状況	重要文化的景観（一次）		
所在地	字荷負河川用地の一部		
所有者	国土交通省		
概要	<p>ポロシリを源流とする額平川と沙流川本川との合流地点である。アイヌ語でペテウコピと呼ばれ、「pet e u ko hopi i (川が・そこで・互・に・捨て去る・所)」と語源分解をして理解することができる。アイヌの考え方では、川は河口から源流に向かう生き物であるとされており、大河川の分岐点は重要な部分として敬意が払われている。沙流川にかかる管理橋からは、透明度の高い沙流川に額平川の濁流が交わり、水温の違いなどにより合流後もしばらくの間は混合せず、分離し二色のまま流れていくのが特長的である。</p>		
価値	<p>沙流川流域の特徴的な自然・地形に暮らしたアイヌのコスモロジーを理解するための伝承地として重要</p>		
保存の対象と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形質を保全し、河川の流路を大幅に変更しない。また周辺の自然生態系の保全に努める。 		
現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	<ul style="list-style-type: none"> ・流路の大幅な変更 ・土地の掘削、盛土、切土 ・建築物、工作物、土木構造物等の新築 ・河畔林の生態系に著しい影響を与える樹木の伐採 		